

まなびと



もくじ

特集 日常の社会科授業を見つめ直す PartⅢ

日常の社会科授業の力を上げるための工夫・取り組み

—なぜなぜ先生になって社会科授業を改善しよう— 2

日常の社会科授業を通した「自ら学ぶ子」の育成

—自ら考え、学びを深め合う授業づくり— 6

子どもがすすんで教科書を活用する手立て

—学習問題を活用した教材分析と授業展開の改善— 11

日常の社会科授業の力を上げるための工夫・取り組み

—なぜなぜ先生になって社会科授業を改善しよう

東京都板橋区立板橋第十小学校校長 いしばし まさお
石橋 昌雄



知らないから楽しい

世の中は不思議なことであふれている。しかし、社会科に興味・関心がない先生や子どもには、その不思議が見えていない。そのため、残念ながら多くの学校で社会科は子どもに不人気の教科となっている。しかし、子どもの周りにある一番身近なものは社会であり、毎日社会に接していない人を探すほうが難しいのである。このように考えると、初任者が社会科を苦手と言うのは、世の中が苦手と言っていることにほかならないのである。

ところで、社会科が苦手な教師の多くが、「知らないから教えられない」と言う。これがそもそも間違いである。知らないから調べたくなり楽しいのであって、知っていたら楽しみは半減する。不思議がいっぱいあったほうがよい。教師は、子どもがもつ疑問に答えられないほうがよい。すぐに答えてしまったら子どもは調べる意欲も湧いてこない。「先生もわからないなあ。よし明日まで

に調べてこよう。」と子どもに投げかけ、子どもと競い合って不思議を調べたり考えたりするのが社会科の楽しみである。

最近見る残念な社会科授業は

① ねらいまたは学習問題が明確でない授業

教師にはねらいがわかっている側にはどうもねらいがわからない。当然、子どもも何をこの時間に学ばばよいのか、追究すればよいのかよくわからない。

② 教科書を解説する授業

特に高学年に多い。教師が教えることが先に立ち、ほぼ一方的にしゃべっている。子どもが調べる時間も考える余地もない。

③ 発問と答えの繰り返しの授業

いわゆるT・C・T・Cの授業である。発言は繰り返されているがまるで深まらない。特に知識や数値をあてさせる発問が多く、あえて発問する意味があるのかと疑問に思う。

④ 言語活動することがねらいになっている授業

子どもは活発に話し合っているように見えるが、何を話し合うべきなのか、何を表現すべきなのかが明確ではない。

⑤ 練習成果の発表会になっている授業

発表練習を繰り返して本番はそれを披露するだけという授業である。

解決策1 問題解決学習の基本型をとらえる

では、そうした残念な授業から脱却するにはどうしたらよいのだろうか。まずは、社会科本来の授業の原点に戻り、問題解決型の授業にすることである。例えば「どうして製鉄所は海の近くに多いのだろうか」という「めあて」（本時の学習問題）



消防自動車の中ってどうなっているの？

を立て子どもに予想させる。次に問題を追究するための資料を教科書や資料集、教師が配布する文書資料などをもとに調べさせ、予想の是非を子どもたちに考え合わせる。そして、製鉄所が海の近くにあるわけをまとめ、本時の感想を書く、というのが問題解決の基本形である。これをまずは一時間でできるようにし、やがて小单元全体で「学習問題」を立てて問題解決的な学習ができるようにするのが早道である。

解決策2 興味・関心をもてる教材を取りあげる

社会科の目標や内容は、理数系の教科と比較するとかなり幅があるものである。例えば5年生の学習指導要領の内容には「我が国の農業や水産業について、次のことを調査したり地図や地球儀、資料などを活用したりして調べ、それらは国民の食糧を確保する重要な働きを果たしていることや自然環境と深いかわりをもっていることを考えるようにする」とある。つまり、目標や内容がはずれていなければ、どこの地域の農業・農家を取りあげてもよいし、稲作しか取り扱ってはいけないわけでもない。一般的には教科書が取りあげている地域を扱うが、必ずしもそれにしたがう必要はない。他の地域を扱って悪いわけではない。つまり、教師が自ら日本の典型的な農家や地域を訪問して教材を開発し、農家が国民の食糧を確保するためにやっている工夫や努力についてとらえさせ、作物の生育が天候や土などの自然環境と深くかかわっていることや、田畑が保水や保温など自然環境そのものを保つ役割も果たしていることがとらえられればよいのである。

また、子どもたちの生活している地域は教材の宝庫である。とりわけ中学年では「なぜ、あそこに千川上水の札の立っているほこらがあるのか」「なぜ、この道は急に曲がっているのか」「住宅の中にぽつんとある店は、なにを売っているのか」など、次々に子どもの「なぜ」「なに」がでてくる。いやがおうでも問題解決的な学習ができてしまうのが地域教材である。

解決策3 考えを引き出す発問をする

「T：これはなんといいますか」「C：ごみパンカです」「T：では、これはなんというでしょう」「C：沈殿池です」このようにほとんど日常では使わない施設の名称を問う発問を繰り返してもあまり意味がない。大切なのは、その施設がどんな役割を果たしているかである。

「消防自動車は何台あると思いますか。」「4台です。」なにを根拠に4台と考えたのだろう。他のものと比較して予想する台数ならよいが、ただのあてものの発問ではあまり意味がない。このように、調べればわかることについて質問と答えを繰り返す授業ではなく、考えを引き出す発問を工夫したい。例えば「どうして消防自動車は一か所に集めずに、あちこちに数台ずつ置いてあるのでしょうか」と発問すれば、「どこで火事がおきても組織的、協力的に素早く火災現場に到着できるから」と考えることができるのである。

解決策4 何を話し合い、どう表現するのかを明確にする

言語活動の重視が強調される中で、「さあ、話し合しましょう」と教師が子どもに投げかける場面が多く見られる。しかし、そう言われただけでは、子どもは自分の考えを書いたノートを読むことしかできず、それで終わりになってしまっている授業も少なくない。一見、学び合っているようだが、実は考えはなにも深まっても広まってもいない。なにについて、何分間で、どのように話し合い、どのようにまとめ発表したり表現したりするのかを明確にしたうえで話し合わせたい。

上で述べてきたことを、第3・4学年で取り組んだ、授業と日常の調査活動とを組み合わせで行った継続的な実践例を通して考えてみる。

問題解決学習をし続ける楽しみ(解決策1に関して)

給食食材の産地を、給食室に表示する学校が増えている。これまでは、段ボール箱や値札から産地調べをせねばならなかったが、給食室の外に毎

日、産地が貼り出されるようになった。

これを使わない手はないと考え、すかさず教材開発をすることにした。



段ボール箱で産地調べをしていたが…

第3学年の9月に、「先週から給食室の前に給食の食材の産地が表示されています。知っていますか。わたしたちが食べている給食の野菜は、どこから運ばれてくるのか調べてみましょう。」と投げかけた。子どもたちは東京都の近県からではないかと予想を立て、問題解決していくことにした。

数人の子どもが、中休みの時間になると給食室へ調べに行くようになった。やがて、産地表示は中休みの終わり頃に貼り出されるらしいということがわかってきたので、その時刻を見計らって調べに行くようになった。調べた野菜の産地を地図帳で調べ、日本の白地図に記入していった。その



こんな調べ方もあるのね！

際、白地図に書かれた県名をペンで囲むことにしているの、いやでも都道府県の位置と名称を覚えるようになった。また「あれ、同じ野菜でも日によって産地が違うよ。」と、さらに調べたいことが出てきた。

にんじんの生まれ故郷が変わった(解決策2,3)に関して

数ある野菜の中でも、にんじんは栄養価が高く比較的安価であるためよく使われる食材であり、子どもにとっては身近な教材でもある。子どもの興味関心を高めるために「ええっ。産地が違うなんて先生も気付かなかったなあ。毎日調べてみて。」と、わざと知らない様子で子どもにはたらきかけた。白地図が込み入ってきたので、産地を書き込む地図を一月ごとに変えることとし、前の月と比べさせた。やがて「先生、いろいろな県から運ばれて来る野菜もあるけど、いつも同じ県から運ばれて来る野菜もあるよ。」「にんじんは毎月、北海道から運ばれて来るね。」と子どもたちが気付いた。

ところが11月になった途端に、にんじんが北海道から運ばれて来なくなった。にんじんの産地は北海道と決めてかかっていた子どもたちに、新たな疑問が出てきた。「北海道のにんじんは、取り過ぎてなくなったしまったのかなあ。」「もうすぐ冬だから、にんじんがとれなくなるのかな。」「寒くなったのが理由なら、これから産地が南に移るのかなあ。」などの反応が見られた。このように子どもたちから次々に疑問や考えが出てきた。

これまでのように、白地図の該当する県に品名を書き込んでいるだけではごちゃごちゃになってしまうので、どうしたらわかりやすく表現できる



にんじんはどこから運ばれて来ているかな？

かを子どもたちが考えた。そして、正の字で表したり、野菜の種類別に色を変えたり、数をシールで貼ったり、棒グラフで表したりと表現方法も工夫した。さらに産地に変化が見られるわけについても考え予想した。

産地と自然条件について話し合う (解決策4) に関して

4年生になり、子どもたちが考えたことのは非が明らかになっていった。「にんじんなど野菜の産地が北から南へ動いているよ。」「1年調べたら、きっと産地はまた北に戻っていくはず。」などの反応があった。また、地図を見ながら、雪が降る季節には日本海側では野菜がとれないことなどにも気付いた。

ここで子どもたちに「どうして野菜の産地は変わるのだろう。」ということをして、これまでの調べ学習をもとにして話し合わせた。「にんじんは北から南へと産地を変えたけど、しょうがはいつも高知県から運ばれて来ている。」「太平洋側に野菜の産地が多い。」「日本海側は雪が多く積もるからかな。」「それとも稲作が盛んだから野菜を作っていないのかな。」など、野菜の産地は、土地の高低、国土の南北、季節、他の作物との関係などによって異なることをとらえ、友だちの前で発表することができた。



いろいろなことがわかってスッキリしたよ！

教科書は主たる教材

初任者にもできる社会科の改善の工夫を上 に述

べてきたが、教材研究をしている暇など、とてもないという初任者もいると思う。その場合、恰好の教材は他ならぬ教科書である。ある研究授業で「この時間は教科書を開いてはいけません。答えが書いてあるからです。」という教師の発言があった。それを聞いて「ああ、この先生は教科書の内容を覚えることが社会科だと考えているのだな。」と理解せざるをえなかった。実は、教科書の内容をすべて暗記したとしても、それは社会科の力が付いたことにはならない。なぜなら教科書に書いてあるまま「森林は土砂くずれを防ぎます。」と子どもが発言したとしても、その意味を理解しているとは限らない。授業で考えたり学んだりし合うことを通してこそ、意味の理解は図られる。

つまり、知識の習得を確かめるための発問でないのであれば、教科書を開いてもかまわないし、なにを調べてもよいのである。教科書を覚えて正答できたとしても、どうしてそう考えたのか根拠や理由を言わせれば、本当にわかっているか否かは明らかになる。

子どもが自ずと社会科を好きになる方法

本当は楽しいはずの社会科を、嫌いな子どもが多いのは、教師が社会科を暗記するものと大きな誤解をしているからではなかろうか。もちろん、都道府県名や国名など暗記すべきこともあるが、大部分の社会科の内容は、調べたり考えたり表現したりすることを通して理解が図られるものである。まず教師自身が「不思議だなあ」「なぜだろう」と、地域や世の中の日々の出来事に関心を向け、そこから発見しようとする気持ちをもつことが大切である。毎日を問題解決的に生きている教師なら、追究したくなる問題を自ら発見し、それを子どもたちと共有しながら考えていこうとするはずである。そうした「なぜなぜ先生」が増えることを期待したい。

(後半の実践例は板橋第十小学校：石橋昌雄と奥村菜月の共同研究による)

日常の社会科授業を通した「自ら学ぶ子」の育成

— 自ら考え、学びを深め合う授業づくり —

高知県高知市立昭和小学校 おがわ あきこ
小川 晶子



1. はじめに

21世紀は知識基盤社会といわれ、グローバル化していく社会の様々な諸問題について対応できる幅広い知識と柔軟な思考力や判断力が求められている。未来を担う子どもたちに「生きる力」をはぐくむ私たちの役割は大きい。

本校は社会科研究校であり、これまで子どもたちが興味・関心を持ち、自ら考え課題解決ができる授業を試行錯誤しながら行ってきた。しかし、「今日の授業は子どもたちの学びが深まった！」という手ごたえのある授業を常に行い続けているとはいえない。手ごたえのある授業とは、子どもたちが課題解決に向けて自ら意欲的に考え、思考力を働かせつつ集団で様々な意見を交わし、こだわりを大切にしながら追究を進めていく中で新たな考えや気づきを生み出し、その過程で確かな学力を身につける、そんな授業である。文部科学省は「確かな学力」を、「知識や技能はもちろんのこと、これに加えて、学ぶ意欲や、自分で課題を見付け、自ら学び、主体的に判断し、行動し、よりよく問題を解決する資質や能力」であるとしている。本校では「自ら学ぶ子の育成～自ら考え、学びを深め合う授業づくり～」を研究主題として、問題解決的な学習過程や学びの深まる授業づくりを目指し、思考錯誤しながら取り組んでいる。

2. 児童の実態把握 — 社会科アンケートより —

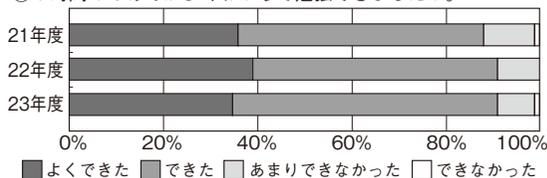
本校では毎学期ごとに社会科アンケートを行い、児童の実態を把握し、授業に生かすようにしている。3年間のアンケート分析結果から、本校児童は課題をしっかりと把握し、自ら調べる学習には非常に興味・関心があり意欲的であることが分かる。

【児童アンケートの項目】

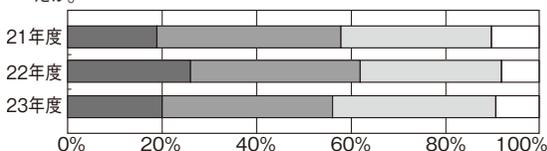
- ① あなたは、社会科が好きですか。
- ② 1時間のめあてがよくわかって勉強できましたか。
- ③ 課題に対して予想して考えることができましたか。
- ④ グループや班で調べる活動（見学）はできましたか。
- ⑤ 疑問に思ったことを調べることができましたか。
- ⑥ 調べ活動は好きですか。
- ⑦ 調べたことから疑問を持つことができましたか。
- ⑧ 自分なりの意見や考えを言えましたか。
- ⑨ 自分の意見に理由をつけて言えますか。
- ⑩ 班で話し合う時、自分の意見や考えを言えましたか。
- ⑪ 仲間の意見を聞き、自分の考えと比べることができましたか。
- ⑫ 仲間の意見に付け足したり、質問をしたりすることができましたか。
- ⑬ 1時間の終わりに感想や疑問が持てましたか。

しかし反面、自分と仲間との意見を比較したり意見をつないだりするなど、表現することが苦手であることも分かる。児童アンケートを参考にしながら、社会科の授業では、調べる力、考える力、そして本校児童が苦手とする表現する力を育てるための指導工夫が必要であることを学期ごとに教職員間で共通理解を図り、指導工夫を行っている。

② 1時間のめあてがよくわかって勉強できましたか。



⑫ 仲間の意見に付け足したり、質問をしたりすることができましたか。



3. 自ら学ぶ力を育てる学習活動の工夫

(1) 単元構想図の作成

本校では「自ら考え、学びを深め合う授業」をめざし、指導案作成の際には単元全体の骨格を表した単元構想図を作成している。めざす子どもの姿を想定し、実態を踏まえながら学習指導要領から子どもに考えさせたい内容、調べる方法を見出し、思考の連続性を大切にしながら単元を構想する。学習内容と目標、習得させたい社会科用語、予想される児童の反応などを記し、これを基に指導計画を作成する。その際に①児童の問題意識にそった構想図、②目標を達成できる学習過程、③思考がつながる学習過程、の3点を心がけている。次頁に6年「新しい時代の幕開け～郷土の先人 坂本龍馬～」の単元構想図を掲載した(図表①)。幕末から明治維新にかけての歴史的事実や背景を学ぶ中で、土佐が誇る郷土の先人、坂本龍馬の生き方や業績を追究しながら日本の歴史を学ぶ、教科書と地域教材との融合を意図した単元構想をまとめた図である。総合的な学習や道徳などもリンクさせながら、問題解決的な学習の流れを大切に授業を行った。今回は、新たに龍馬が海援隊発足時に残した「海援隊約規」について教材開発し、授業実践に取り入れた。授業の中では、当時の日本においては斬新で画期的な龍馬の考え方が後に船中八策となり明治維新へとつながっていくことを学び合った。学習指導要領の第6学年の目標にも記されているように、「先人の業績や優れた文化遺産について興味・関心と理解を深め、我が国の歴史や伝統を大切にし国を愛する心情を育てるようにする」ためにも、それぞれの地域における郷土史や地域独自の教材を開発しながら組み込んでいくことは大切であると考えた。

(2) 思考力・判断力・表現力育成のために

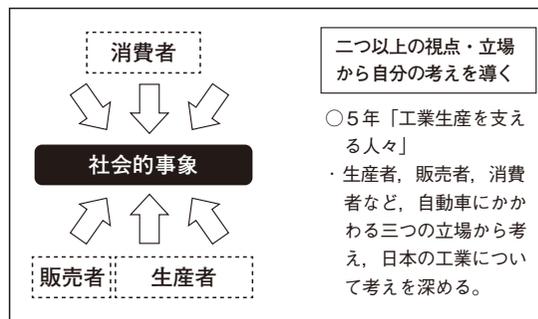
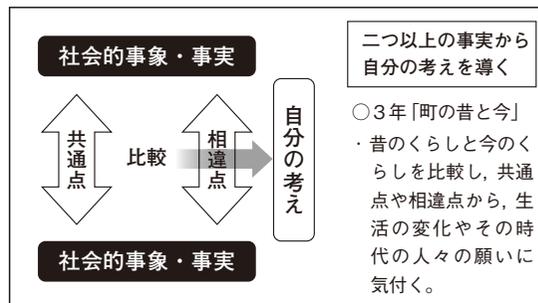
① 社会科における言語活動

社会科では、その社会的背景にある問題や課題を探り、社会的事象を多面的に考察するために様々な資料(写真・図・地図・グラフ・文章資料

など)を読み解きながら学習を進める。社会科における言語活動で身に付けさせたい力を本校では以下のように捉えている。

- ① 資料や観察・調査などから事実を正確に捉える力
- ② 情報を目的に応じて記録する力
- ③ 比較したり関連付けたり、総合したりしながら社会的事象の意味について考え、考えを再構成する力
- ④ 根拠や解釈を示しながら考えや思いを伝え合い、共に学び合う力
- ⑤ 自分の考えを自分のことばでまとめる力

特に③については、仲間と共に学び合い、考え合う中でこれらの力を育もうと取り組んでいる。調べたことを活用しながら、さらに社会的事象の意味を捉えさせるようにしている。



5年の食料生産の授業の導入では、写真と資料を関連付けながら比較させ、共通点や相違点を見付けながら課題を見出す授業を行った。子どもたちが思考力を働かせる手立てとして、物事の特徴をとらえるために「比較して考えさせる」ことは有効である。常に共通点と相違点を意識させ、気付きや疑問を番号を付して記録させた。また、授業の中で書く活動を保障したいと考え、意見を伝えることが苦手な子どもにも、まずは自分のこと

図表① 単元構想図

☆子どもの予想される反応

☆単元を貫く共通の学習問題

単元構想 (全13時間)

- 幕末から明治維新にかけての歴史的事実や背景を知り、新しい時代をつくるために活躍した坂本龍馬や他の先人たちの業績を調べる中で、先人たちの思いや願いを考えながら当時の社会の様子を理解する。

課題をつかむ・予想する①②	学習の流れ	目標
<p>龍馬が命をかけて脱藩した場所が袴原だ。龍馬はなぜ藩を出たのだろう。</p> <p>この時代に脱藩は重罪で大変なことだ。龍馬は何をするために脱藩したのだろう。</p> <p>日本の歴史とどんななかかわりがあるのだろうか。</p> <p>龍馬と一緒にいる人たちは仲間だろうか。京都や長崎にも龍馬像がある。</p> <p>脱藩をしてまで、坂本龍馬がしたかったことは何だろう。</p>	<p>なぞ袴原に龍馬像(維新の門)が建てられているのだろう。</p> <p>道徳③ 総合的な学習⑩</p>	<p>①資料を基に学習問題について考えることができる。</p> <p>②龍馬の生誕地や記念館の見学、調べ学習を通して龍馬の生い立ちや業績を調べることができる。</p>
<p>自分たちの郷土である土佐藩の身分制度について考えよう。</p> <p>・土佐藩の身分制度(藩主・上士・下士)・郷土身分の龍馬</p> <p>土佐藩には、武士の中にも上士、下士という厳しい身分階級があった。龍馬は下士の身分だった。</p> <p>身分の低い下士たちは自分の意見を藩主に言えなかった。差別が厳しかった。</p> <p>親戚が商家だった龍馬の考え方は自由なところが窮屈に感じた。</p> <p>開国のメリットは? デメリットは?</p> <p>・黒船・ペリー・開国・日米和親条約・日米修好通商条約</p> <p>・治外法権・関税自主権・江戸修業中の龍馬・攘夷</p> <p>＜開国のメリット＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外国から進んだ技術や文化を学べる。 ・このままでは日本は遅れてしまっただけ。 <p>＜デメリット＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・不平等な条約は日本に不利になってしまう。 ・力の差があるから外国から命令される。 <p>龍馬が脱藩を決意した理由は何だろう。</p> <p>・河田小龍の影響(漂兵衛) ・土佐勤王党結成</p> <p>・日本を変えるための脱藩・脱藩の道(袴原)</p> <p>土佐藩にいても上士に押しつけられて意見を聞いてもらえないから土佐を出るしかなかったのではない。</p> <p>河田小龍からジョン万次郎の話聞いて、世界に目を向けた龍馬は、土佐を出て日本を変えるために脱藩した。</p> <p>脱藩は当時重い罪だった。その罪を犯しても龍馬は脱藩した。</p> <p>龍馬が脱藩を決意した理由は何だろう。</p> <p>・勝海舟・海軍操練所・亀山社中・禁門の変</p> <p>龍馬は勝海舟との出会いによって、海軍の力を強くすることが日本にとって大切であると考えた。</p> <p>亀山社中は、龍馬が同を集めて海運業をしながら航海術を学ぼうとしたんだね。</p>	<p>③土佐藩の武士の身分制度を資料から読み取り、当時の社会情勢を理解することができる。</p> <p>④黒船来航の絵図から日本の情勢を読み取り、龍馬や人々の気持ちや考えを調べるができる。</p> <p>⑤土佐藩や土佐勤王党の動きを知り、龍馬が脱藩した理由や脱藩後の足取りを調べることができる。</p>	
<p>龍馬はどのようにして薩長同盟を結ばせたのだろう。</p> <p>・倒幕の中心(薩摩藩と長州藩)</p> <p>・西郷隆盛 ・木戸孝允</p> <p>【薩長同盟】</p> <p>龍馬の仲立ちで成立</p> <p>龍馬は争いをせずに手を結ばせる方法を探っていた。</p> <p>薩摩藩(武器)と長州藩(米)を仲立ちすることで両藩とも互いに利益を得た。</p> <p>中間調太夫と共に薩長同盟にかけの熱意が同盟を実現させたんだね。</p> <p>薩長同盟の誓書証明</p> <p>龍馬の仲立ちで薩長同盟を結び、協賛して天皇を中心とした政府を樹立しようとした。</p> <p>海援隊規約の中で、自分が「新しい考え方」だと思う規則を選んで理由を伝えよう。【本時6-3】</p> <p>・海援隊・海援隊規約・平等の精神</p> <p>・日本のカンパニー</p> <p>船中八策の中で、自分が一番大事だと思う策を選んで理由を伝えよう。【本時6-11】</p> <p>・後藤象二郎・長岡謙吉・建白書</p> <p>龍馬は土佐藩では郷土として差別を受け、考えを採用してもらえなかった。</p> <p>このままでは倒幕派が幕府を倒し戦争になる。政権を朝廷に返し、天皇を中心とした政治をすることがまずは先だ。</p> <p>外国から攻められないようにするために海軍の力を強くすることが大切だ。</p> <p>不平等条約のために人々の生活は苦しくなったので、条約改正が大事だと思う。</p> <p>龍馬は日本を変えようとしていた。争いや身分の差がない平和でみんなが幸せになれる世の中をつくるために努力をした。</p> <p>龍馬はどのようして薩長同盟を結ばせたのだろう。</p> <p>龍馬は争いをせずに手を結ばせる方法を探っていた。</p> <p>薩摩藩(武器)と長州藩(米)を仲立ちすることで両藩とも互いに利益を得た。</p> <p>中間調太夫と共に薩長同盟にかけの熱意が同盟を実現させたんだね。</p> <p>薩長同盟の誓書証明</p> <p>龍馬の仲立ちで薩長同盟を結び、協賛して天皇を中心とした政府を樹立しようとした。</p> <p>海援隊規約の中で、自分が「新しい考え方」だと思う規則を選んで理由を伝えよう。【本時6-3】</p> <p>・海援隊・海援隊規約・平等の精神</p> <p>・日本のカンパニー</p> <p>船中八策の中で、自分が一番大事だと思う策を選んで理由を伝えよう。【本時6-11】</p> <p>・後藤象二郎・長岡謙吉・建白書</p> <p>龍馬は土佐藩では郷土として差別を受け、考えを採用してもらえなかった。</p> <p>このままでは倒幕派が幕府を倒し戦争になる。政権を朝廷に返し、天皇を中心とした政治をすることがまずは先だ。</p> <p>外国から攻められないようにするために海軍の力を強くすることが大切だ。</p> <p>不平等条約のために人々の生活は苦しくなったので、条約改正が大事だと思う。</p> <p>龍馬は日本を変えようとしていた。争いや身分の差がない平和でみんなが幸せになれる世の中をつくるために努力をした。</p>	<p>⑥龍馬が脱藩を決意した理由や脱藩後の足取りを調べることができる。</p> <p>⑦龍馬が脱藩を決意した理由や脱藩後の足取りを調べることができる。</p> <p>⑧薩長同盟がその後の国策に与えた影響を理解することができる。</p> <p>⑨海援隊規約を龍馬の立場になって考え、規約の内容を知る。</p> <p>⑩考えを伝え合う中で「平等」「助け合い」「学問」など、海援隊で目指そうとした龍馬の考えが当時進んだ考え方であったことを知る。</p> <p>⑪船中八策が作られた理由を歴史的事実を基に考え理解することができる。</p> <p>⑫考えを伝え合い、船中八策に込められている龍馬の思いや願いを調べることができる。</p> <p>⑬龍馬の業績やメッセージを自分のことばでまとめることができる。</p>	
<p>龍馬の考えは、新しい政府のどんな改革に取入れられているだろう。</p> <p>・大政奉還</p> <p>・五か条の御誓文</p> <p>・明治維新</p> <p>・四民平等</p> <p>伝えよう! 龍馬からのメッセージ!</p> <p>○龍馬の業績や龍馬から受け取ったメッセージをまとめてよう。</p> <p>・龍馬ガイドブック ・新聞 ・年表 ・パンフレット ・龍馬カレンダー</p>	<p>明治政府の出した五か条の御誓文の「會議を開く」などは、船中八策の考え方が取り入れられている。</p> <p>坂本龍馬は、「自由」「平等」「民主主義」の考え方をもち、日本を変えるために行動した。龍馬の考えは新しい時代に受け継がれ、今の平和な日本の礎となっている。</p>	<p>⑭龍馬の考えが明治政府の諸改革にどのように反映されているかを調べることができる。</p> <p>⑮龍馬の業績やメッセージを自分のことばでまとめることができる。</p>

☆その時間に理解させる社会科用語やキーワード

☆問題解決的な学習過程

- ①課題をつかむ・予想する
- ②調べる・追究する
- ③学び合う・深め合う
- ④まとめる・広げる

☆学びを深め合う授業思考力・判断力を問う場面設定

ばで書かせるようにした。時間を決めて書かせる訓練を続けると、あまり書けなかった子どもも次第に書くことができるようになってくる。また、社会科は様々な資料を読み解かねばならない。しかし、ただやみくもに見ていても資料は読み解けない。そこで、子どもたちにいくつかの視点を持たせて資料の読み取りをさせた。

- 視点
- 見えること・見えることからわかること
 - 予想できること・疑問に思うこと・比較してわかること

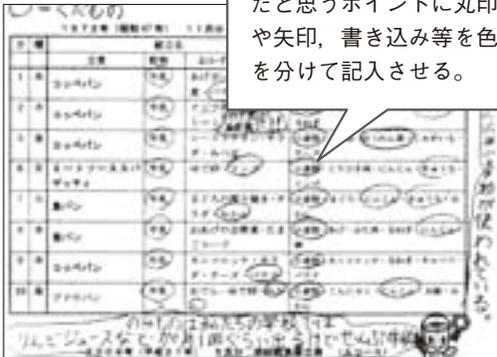


写真を比較して資料と関連付ける。



気付きや疑問を番号を付して自分のことばで表現させる。

予想できることは自分の経験を振り返りながら予想させる。



資料を読むときは、大事だと思うポイントに丸印や矢印、書き込み等を色を分けて記入させる。

② 集団思考を深める工夫

本校では、思考力・判断力・表現力を育て、多様な考え方を引き出すために、話し合い活動を授業の中に位置付けて実践している。その際には、特に次のようなことを意識しながら指導計画を立てている。

- ① 子どもにとって具体的な学習課題（問題）を設定する。
- ② 価値判断・意志決定ができる課題を設定する。
例）・選択する（どちらが～だろう）
・優先順位をつける（一番～なのはどれだろう）
・賛否（賛成・反対）や判断（正しいかどうか）を問う
- ③ 図や資料、実物など具体的なもので比較したり関連付けたりすることができるようにする。
- ④ 解決の過程を通して、社会の仕組みや働きが認識できるような課題を提示する。

<実践例>

6年「新しい時代の幕開け～郷土の先人坂本龍馬～」

「海援隊約規」の中で、自分が「新しい考え方」だと思う則を選んで理由を伝えよう。<選択型>

- 海援隊約規の5則の中から、当時として新しい考え方であると思う則を選び根拠をあげ話し合う授業。
- ・ 3則には「助け合い」と書かれている。江戸時代の幕府の考え方とは全く違って新しい。
- ・ 5則には「給料をみんなで分配する」と書かれている。平等ということを大切にされた考え方は、当時として新しい。
- ・ いろは丸事件では、龍馬は万国公法を使用してトラブルを解決した。4則の「法律を知る」ということは勉強を奨めるもので、新しい考え方だと思う。



海援隊約規として龍馬がつくった約束事は、龍馬の理想であり次の時代へとつながっていく考え方だと気付くことができた。

③表現力アップ作戦

話す力をつけるために、社会科の時間以外でも「お話名人」の作成や接続詞の活用のほか、学級独自の話型モデル（図表②）を話し合って作るなど、表現力向上に努めている。話を深め合う授業を目指すためには、「聴き合う」「話し合う」学級づくりが基本である。

④学びのリレーションシート

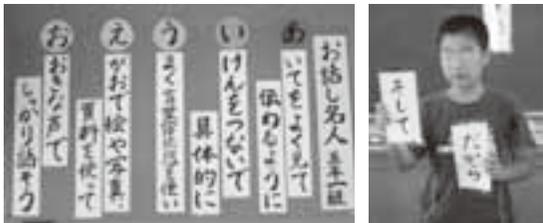
児童のかかわり合いを授業に活かすために、前時までの子どもの思考を見取り、座席表に記入し、どの活動でどの子の考えを活かすことができるかを分析しながら授業を行う。（図表③）この座席表を「学びのリレーションシート」と呼び、着目

したい子ども数名や授業者のチャレンジポイントなども記している。これらを活用しながら、さらに授業を充実させ、社会科の指導力向上、教師力向上のために取り組んでいきたいと考えている。

図表②

社会科お話し名人6つのポイント

- ①自分の生活や経験を入れて考え話す。
○例の家では～ ○4年生の時に～ ○
- ②予想だけでなく今までの学習や調べ
○この前調べた時に～ ○前の時間
○資料集 20 ページを見てください。～
- ③共通点や相違点を見つけよう。
○A と B とを比べて違うところ、同じ
○例えば、田舎に行った時におはちや
○例えがかわった新しい発見があるの
だんをふまえて聞くと考えが深まった。
- ④「お話し～」「もし～をら」と展開
○例えば、田舎に行った時におはちや
○例えがかわった新しい発見があるの
だんをふまえて聞くと考えが深まった。
○Aさんの～という考えを聞いて～
○Bさんの～という部分を聞いて～
○Cさんの～という部分が気になります
～
⑤最後は自分の生活にふりかえろう！



図表③

＜6年3組 学びのリレーションシート＞

**新しい時代の幕開け ～郷土の先人 坂本龍馬～
児童ワークシート記述内容より（選んでいる則）**

①歴史的事実や背景を基に、海援隊約規が新しい考え方だと思ふ理由を伝えることができる。
・「自立」「平等」「開国」など選んだ考え方を取り入れている海援隊約規から、龍馬が目指した海援隊を考える。

②「自分の意思で得意な科目を選んで学ぶ」は、この江戸時代は自分の職業や身分は、親の後の生活で決まっていた。自分らしい生活を送りたいという考えがあったので「自分の意思で選んで学ぶ」ところが新しい考え方だと思ふ。

③江戸時代は身分の差別がすごかったが約規では互いに助け合いの心で平等に生活することを目指す。龍馬は好きなことを学べると思っているで新しい約規をつくろうと思つた。

④江戸時代では女子学、蘭学、蘭語を学んでいたが海援隊では政治・法律・蘭学、蘭語、蘭学から自分の新しい考案だと思ふ。江戸時代の蘭学の改革では、女子学以外でも女子が学べると思つた。

⑤自分の得意なものが書けるので、例えは法律だった龍馬の「海外開国」では、日本が平等な社会になることを目指す。海援隊の約規は、女子学以外でも女子が学べると思つた。

海援隊約規の中で、「自分が新しい考え方」だと思ふ則を選んで理由を伝えよう。

＜学習活動＞

- 課題を確認し、自分が「新しい考え方」だと思ふ則を選んで理由を伝えよう。
- 約規の中から「新しい考え方」だと思ふ則を選んで理由を伝えよう。
- 約規の中から「新しい考え方」だと思ふ則を選んで理由を伝えよう。

①「自分の意思で得意な科目を選んで学ぶ」は、この江戸時代は自分の職業や身分は、親の後の生活で決まっていた。自分らしい生活を送りたいという考えがあったので「自分の意思で選んで学ぶ」ところが新しい考え方だと思ふ。

②「自分の意思で得意な科目を選んで学ぶ」は、この江戸時代は自分の職業や身分は、親の後の生活で決まっていた。自分らしい生活を送りたいという考えがあったので「自分の意思で選んで学ぶ」ところが新しい考え方だと思ふ。

③江戸時代は身分の差別がすごかったが約規では互いに助け合いの心で平等に生活することを目指す。龍馬は好きなことを学べると思っているで新しい約規をつくろうと思つた。

④江戸時代では女子学、蘭学、蘭語を学んでいたが海援隊では政治・法律・蘭学、蘭語、蘭学から自分の新しい考案だと思ふ。江戸時代の蘭学の改革では、女子学以外でも女子が学べると思つた。

⑤自分の得意なものが書けるので、例えは法律だった龍馬の「海外開国」では、日本が平等な社会になることを目指す。海援隊の約規は、女子学以外でも女子が学べると思つた。

Myチャレンジの児童からスタートしたい
・意見を伝え合う中で、新しい学びや学び方がまわれるかどうか。
・約規の内容が龍馬の原点であり、今後の日本の政策につながるようになっていくことに一人でも気がつくことができる。

かかわり活かす子 V
○この龍馬学習では、龍馬の書籍を自ら購入し、意欲的に自ら進んで調べることが多くなっている。3則「助け合い」や3則「自立」が新しいと思つている。海援隊約規を今の比較によって考えている。子どもも江戸時代との比較だけでなく今の約規についても気付かせるために意図的指名をし、思いを語って聞けることを期待したい。

①「自分の意思で得意な科目を選んで学ぶ」は、この江戸時代は自分の職業や身分は、親の後の生活で決まっていた。自分らしい生活を送りたいという考えがあったので「自分の意思で選んで学ぶ」ところが新しい考え方だと思ふ。

②「自分の意思で得意な科目を選んで学ぶ」は、この江戸時代は自分の職業や身分は、親の後の生活で決まっていた。自分らしい生活を送りたいという考えがあったので「自分の意思で選んで学ぶ」ところが新しい考え方だと思ふ。

③江戸時代は身分の差別がすごかったが約規では互いに助け合いの心で平等に生活することを目指す。龍馬は好きなことを学べると思っているで新しい約規をつくろうと思つた。

④江戸時代では女子学、蘭学、蘭語を学んでいたが海援隊では政治・法律・蘭学、蘭語、蘭学から自分の新しい考案だと思ふ。江戸時代の蘭学の改革では、女子学以外でも女子が学べると思つた。

⑤自分の得意なものが書けるので、例えは法律だった龍馬の「海外開国」では、日本が平等な社会になることを目指す。海援隊の約規は、女子学以外でも女子が学べると思つた。

かかわり活かす子 S
○これまでの学習では、授業の核となることが多く、疑問や質問を素直に表現できる。海援隊約規では4期の学習についてこれまでの学習をもとに記している自分の思いを伝えながら語ってくれている。友だちの考えについて質問や意見を述べた姿も期待したい。また、友だちの意見から今につながる内容がどこにも気付いてほしい。声かけ。

子どもがすすんで教科書を活用する手立て

— 学習問題を活用した教材分析と授業展開の改善 —

北海道蘭越町立蘭越小学校 三和 史朗



教科書で教える

「教科書を教えるではなく、教科書で教えるのだ。」20年も前に教育実習中に教えられた言葉である。教育大学で社会科教育学を専攻したこともあり、教員になってすぐ社会科サークルに入った。実践研究を続けて18年。現在は担任を外れ、巡回指導教員として若手教師の指導にあたっている。

本誌の特集テーマをふまえ、若い教師や社会科を専門としていない教師たちに向けて、日常の社会科授業をいかにつくっていくか、自分なりに考えた方法を提案したい。特に「教科書で教える」社会科という切り口で。

学習問題を教材分析の糸口にする

教育出版発行の冊子「平成23年度 小学社会 編集の趣意と特色」に、学習問題は「(子どもが)見通しをたてて追究していくため」に教科書に明示したと書かれている。まず、この学習問題は、教師の教材分析に活用することもできるということをも提案したい。それはどういうことか、実際の



学習問題を取りあげながら説明していく。

教育出版「小学社会」5上「1 わたしたちのくらしと国土」の学習問題は次のようになっている。

- 世界からみて、日本はどのあたりの位置にあるだろう。
- 1 地球儀を使って、どこにどんな国があるか、さがしましょう。
- 2 日本の国土と、その周りは、どのような様子なのだろう。
- 3 日本の地形には、どのような特色があるのだろうか。

●印が小単元を通して考える問題で、*印が1単位時間に考える問題である。これらの問題に対し、子どもに期待する答えとしてどのようなものが考えられるだろうか。

2時間目の問題は比較的簡単である。「西側に中国がある」などの答えが期待できるだろう。この授業では『「どこに」と聞かれた場合は方位などを使って答えることが大切である。』ということをおさえさせたい。



2時間目の学習問題は「どのような様子」かを問うている。「様子」を表す答えを、できるだけたくさん発言できることを期待したい。



それでは「様子」を表す文章はどのように書け

ばよいのだろうか。学習問題で問われていることに対する適切な答え方を、子どもたちにどう指導すればよいのか。それを考えることが、教材研究の第一歩となる。ここでの学習内容については、次の表のようになるだろう。

答え方の例	一般化
北半球のユーラシア大陸の東側にある	方位を使う
細長くて弓のような形をしている	別なものに例える
たくさんの島でできている	数で表す

次の学習問題は「どのような特色」かを問うている。「特色」というのは、一般的なものと違った特別なものである。つまり、他と比べるという比較の視点が大事になるということを教える。すると、他の国や大陸と比較して、「狭い国土に多くの山地がある」とか「川は大陸の川と比べてとても短い」という答えが期待できる。

ミニレポートを書こう

日本の地形には、どのような特色があるのだろうか？

学びのてびき

ミニレポートをつくる
—「日本の地形」—

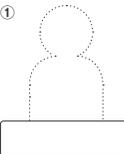
- ①自分の顔と名前を書こう。
- ②国土の形を見て、思ったことを書きこもう。
- ③地図中で、山脈や山地・高地、平野や盆地、川などの地形があるところに色をぬってみよう。
- ④地図を色分けして、山脈や山地・高地、平野や盆地、川などについて、気がついたことをノートにまとめてみよう。

日本の地形

②

国土の形を全体的に見ると

①



④



ここで大切なのは、一般化を図ることで、子どもたちは自分なりの気づきを表現する方法を身につけることができるという点である。そして、学習を通して理解したことや身につけた技能が、他の時間でも活用できるような指導を心がけるといふことである。

つまり、学習問題に対する、読み取り方・考え方・表し方を具体的に指導し、一般化を図ること

で、教科書の文章、写真やグラフなど各種の資料から気がつくことを自分なりにノートに書き出していくことができるようになる。

このように、学習問題の分析を通して、教科書の記述をどのような言葉で一般化し、どのように子どもに解決方法を理解させればよいかを考えると、まさに教科書で何を教え、気づかせたいのかが浮き彫りになってくるのである。

教科書の全学習問題の分析

3～6年の全ての学習問題を洗い出し、自分なりに分析・分類をしてみると次の表のようになった。型の名称は私自身のオリジナルで、異論もあるかもしれない。以下、詳しく説明していく。

	3・4 年上	3・4 年下	5年	6年	合計
列挙総括型	39	58	76	74	247
単純列挙型	5	8	6	3	22
方法提案型	7	1	1	2	11
理由解説型	2	6	1	3	12
その他	1	0	1	6	8

① 列挙総括型

学習問題の文章には「どのような」や「どんな」の疑問詞が多く使われ、そのあとに「様子」や「方法」という言葉がついてくる。ほとんどの学習問題がこの型に当てはまる。この型をさらに細分化すると、「様子」「変化」「違い」「過程」などに分類できる。3・4上では「様子」を問題にしているものが圧倒的に多く、3・4下では「過程」が多い。6年では「変化」が多くなるなど、学年によっておおよその傾向が見られる。

「列挙総括型」と名称を付したのは、求められていること

ベリー艦隊と防備を固める人々

1

新しい時代の幕あけ

黒船

に現

アメ

大船

手紙

を渡

りま

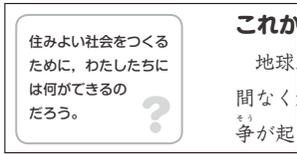
受け

ベリーの来航を、江戸の人々はどのように受けとめたのだろうか？

に対する答えにあたる項目が列挙され、それを総括したものが学習問題に対するまとめになるからである。

② 単純列挙型

①は、学習の最終段階で総括するが、②は総括する必要性が弱いものである。



疑問詞は「どこで」「何」などシンプルなものが多く、聞かれていることをそのまま列挙していくので、①より取り組みやすい。

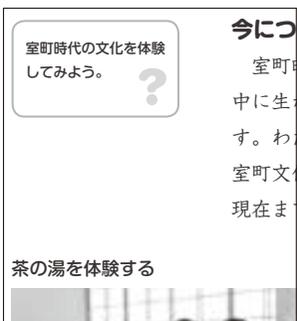
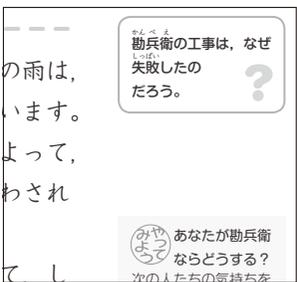
③ 方法提案型

これは、小単元の導入に見られる。特に3・4上に多いのは、社会科の学習を始めるにあたって、調べ方やまとめ方を考えるように促し、多様な手法を身につけるといふねらいがあるからだろう。

疑問詞は「どうすればよいだろう」がほとんどで、それに対応する解答は、「こうすればよい」という方法を提案することになる。これは、①②のように列挙する必要があまりない。

④ 理由解説型

この問題文は、子どもにとって解釈は容易である。「どうしてだろう」「なぜだろう」と聞かれたら、「～から」で答えることは、国語科などで学習している。ただ、答え方がわかることと、答えにあたる理由がわかることとは別である。教科書の本文から理由をすぐに読み取れる場合もあれば、はっきりと根拠立てるには、それなりの資料の提示が必要となる場合もある。



⑤ その他

その他は「～してみよう」という勧誘

がほとんどである。「計画を立ててみよう」というようなもの、「体験してみよう」というものがある。

中学年は地域との関連で学習問題を修正

5・6年の社会科は、教科書と資料集を中心に授業を進めている教師が多いと思う。3・4年は副読本を中心に進めているだろう。副読本にも教科書と同じように学習問題が提示されているとよいのだが、そうになっているとは限らない。

3・4年では、地域とは教材が異なるゆえに教科書をほとんど開くことなく授業を進めてしまいがちである。しかし、教科書の学習問題を分析することを通して、地域教材の研究・開発のヒントを得ることができる。

それは、教科書の学習問題を地域教材にあてはめてみて、そのまま使えるものと修正が必要なものとに分類し、どのような修正が必要なのかを考察するのである。

例えば、3・4上「わたしたちの市の様子」には「鶴見川が流れる所の様子は、どのようになっているのだろうか。」という学習問題がある。身近な地域に川が流れているのであれば、その川の名称に置きかえて学習問題を立てることができるし、その川の教材化に向けた研究・開発を行うことになる。しかし、身近な地域に川が流れていない場合は、川に代えて取りあげる教材の内容を踏まえた学習問題の検討が必要にある。実際には、教科書の学習問題を修正しなくてはならないものは意外と少ない。



学習問題を予習につなげる

学習問題は最初から教科書に書かれている。したがって、次の時間に取り組むべき課題は、教科

書を見ればわかる。そこで、教科書の学習問題を活用して、子どもたちに予習させるという指導も可能である。

まず、教科書の学習問題をノートに書き写させる。次に、学習問題に対する自分なりの考えをノートに書いてくるようにする。すでに示した通り、学習問題のほとんどは列挙総括型である。その問題文の読み取り方と答え方を指導するなど、丁寧に進めていきたい。

それが定着してきたら、予習段階で疑問に思ったことや、みんなの考えを聞いてみたいことを書いてくるようにする。こうすることによって、授業の幅と質が一気に変容してくるはずである。

予習を前提に授業を行うことには、問題点もある。全員が必ず同じように予習に取り組むことができるとは限らないから、授業で自力解決の時間をじゅうぶん保障しないと、上位の子ども主導の展開になってしまう可能性がある。予習を前提とするには難しい子どもの実態があるのであれば、授業の後半を、次時に扱う内容の自力解決の時間にあてるという工夫もできる。その場合、どの子どもがどのような答えを書き、どのような問題意識をもっているかを授業中に把握することができ、次時の展開に活かすこともできる。

育った子どもの姿をイメージできるか

「3月の最後の授業で、どんな子どもに育っているかイメージすることが大事だ。そして、そのイメージに近づくために毎日の授業で子どもを育てていくのだ。」と先輩教師に教わった。

教科書の学習問題の活用により、予習の習慣を身につけさせることを通して、交流を主とした次のようなイメージの授業を展開したいと考える。

6年の「日本国憲法」の授業である。予習では、「平和への願いは、憲法にどのように表されているのだろう。」という教科書の学習問題について教科書などをもとに調べ、「戦争放棄」や「軍隊の不保持」などとノートに書く。

各自が予習してきたことを確かめ合う最初の全

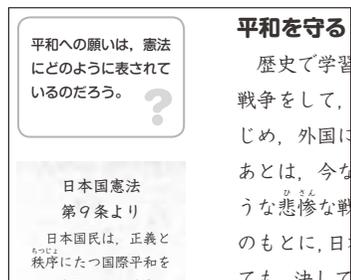
体交流のあと、「自衛隊は軍隊なのだろうか。」「自衛隊があるのに戦争を放棄したことになるのか。」という疑問が出たら、「自衛隊は違憲か」という課題を位置づける。そして、その課題に対する各自の考えを交流し合う。

最初の全体交流で確かめ合うのは、必要最低限の知識であり、習得が求められる内容である。その習得のうえに、子どもの知的好奇心を喚起するような学習問題に取り組むことで、資料活用の技能とともに思考力・判断力が鍛えられ、交流することを通して表現力が育まれるのである。

明日の授業からの活用のために

従来、課題設定場面では教師が用意した資料などを提示して、子どもの問題意識を喚起するように工夫してきた。教材を開発・研究して、精選された資料を用意することはとても重要なことであり、そのことを否定するつもりはない。

そうはいっても、毎時間そうした準備ができる教師がどれだけいるだろうか。社会科の研究授業を参観できる機会も多くはないであろう。そうした状況をふまえ、今回、教科書の学習問題を教師の教材分析や子どもの予習に活用するという方法を提案したが、筆者自身、若手教師の指導を通して実践検証の最中である。課題はまだあるが、明日の授業からすぐに活用することもできるので、参考になれば幸いである。



平成 23 年度用 小学校教科書準拠 教授用ソフトシリーズ

デジタル教科書



みんなで見る! みんなで考える!

小学社会

5~6年

教育出版デジタル教科書のポイント

- 1 画面をできるだけ広く使えるようにツールの配置等を工夫しています。
- 2 ツールは直感的に選べるようにわかりやすいデザインにしています。
- 3 電子黒板がない場合も、パソコンとプロジェクタ等で使えるように設計しています。
- 4 写真はできるだけ明るい色彩調とし、投影式の機器（プロジェクタ）でも見やすいよう配慮しています。
- 5 カラーユニバーサルデザインを意識して、色数を抑えた判別の工夫をしています。
- 6 文字のサイズは、読みやすさを損なわない範囲で最大限大きく表示しています。

デジタル教科書でひろがる授業



さまざまなインタラクティブコンテンツを収録



効果的な映像資料を多数収録

教育出版のデジタル教科書ラインナップ

小学国語 デジタル教科書 ひろがる言葉 1~6年 小学算数 デジタル教科書 1~6年 小学理科 デジタル教科書 地球となかよし 3~6年

63,000円(本体+税)

※各教科・各学年ごとのお求めとなります。1~6、3~6、5~6年をまとめた価格ではありません。



第11回

地球となかよしメッセージ

作品募集(2013年度)

「地球となかよし」という言葉から感じたり、考えたりしたことを、
写真(またはイラスト)にメッセージをつけて表現してください。



応募者全員に
参加賞が
もらえるよ!



2012
入選作品

信友

運動会で私たち6年は、組体操をやりました。
その中の2人技、「サボテン」は雨のせいでグラウンド
がベチョベチョだったので、やりにくく失敗する人たちが
たくさんいました。
私の場所もやりにくく、上の子が「もう落としていい
よ。」と言ってくれましたが、小学校生活最後の運動会だ
つので、絶対成功させたくて、「大丈夫。まかせて!」と
言うと、上の子は「分かった。」と言ってくれました。
その言葉がとてうれしくてうれしくてたまりません
でした。まるで、「信じてる。」と言ってくれているよう
でした。
そのしゅん間、「サボテン」は成功しました。

応募資格

小学生・中学生(数名のグループ単位での応募も可)

応募期間

2013年7月1日～9月30日
詳細は「優秀作品展示室」とあわせてホームページをご覧ください。

作品 テーマ

- ①身のまわりの自然が壊されている状況を見て感じたことや、自然環境や生き物を守るための取り組み
- ②さまざまな人との出会いを通して、友好の輪を広げた体験、異文化交流、国際理解に関すること
- ③その他、「地球となかよし」という言葉から感じたり、考えたりしたこと

◎主催/教育出版 ◎協賛/日本環境教育学会
◎後援/環境省、日本環境協会、全国小中学校環境教育研究会、毎日新聞社、毎日小学生新聞
*協賛・後援団体は昨年実績で、継続申請中です。

応募の決まりなど詳しくはホームページを見てね

<http://www.kyoiku-shuppan.co.jp/>



教育出版

「地球となかよし」事務局

TEL 03-3238-6862 FAX 03-3238-6887
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町 2-10

小学社会通信 まなびと [2013年 春号] 2013年3月29日 発行

編集:教育出版株式会社編集局

印刷:大日本印刷株式会社

発行:教育出版株式会社 代表者:小林一光

発行所:教育出版株式会社

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町2-10 電話 03-3238-6864 (お問い合わせ)

URL <http://www.kyoiku-shuppan.co.jp>



なかよし宣言

わたしたちをとりまく自然や社会は、科学技術の進展や国際化、情報化、高齢化などによって、今、大きく変わろうとしています。このような社会の変化の中で、人間や地球上のあらゆる命がのびのびと生きていくためには、人や自然を大切にしながら、共に生きていこうとする優しく大きな心をもつことが求められています。

わたしたちは、この理念を「地球となかよし」というコンセプトワードに込め、社会のさまざまな場面で人間の成長に貢献していきます。

- 北海道支社 〒060-0003 札幌市中央区北三条西3-1-44 ヒューリック札幌ビル 6F
TEL: 011-231-3445 FAX: 011-231-3509
- 函館営業所 〒040-0011 函館市本町6-7 函館第一生命ビルディング3F
TEL: 0138-51-0886 FAX: 0138-31-0198
- 東北支社 〒980-0014 仙台市青葉区本町1-14-18 ライオンズプラザ本町ビル 7F
TEL: 022-227-0391 FAX: 022-227-0395
- 中部支社 〒460-0011 名古屋市中区大須4-10-40 カジウラテックスビル 5F
TEL: 052-262-0821 FAX: 052-262-0825
- 関西支社 〒541-0056 大阪市中央区久太郎町1-6-27 ヨシカワビル 7F
TEL: 06-6261-9221 FAX: 06-6261-9401
- 中国支社 〒730-0051 広島市中区大手町3-7-2 あいおいニッセイ同和損保広島大手町ビル 5F
TEL: 082-249-6033 FAX: 082-249-6040
- 四国支社 〒790-0004 松山市大街道3-6-1 岡崎産業ビル 5F
TEL: 089-943-7193 FAX: 089-943-7134
- 九州支社 〒812-0007 福岡市博多区東比恵2-11-30 クレセント東福岡 E室
TEL: 092-433-5100 FAX: 092-433-5140
- 沖縄営業所 〒901-0155 那覇市金城3-8-9 一粒ビル 3F
TEL: 098-859-1411 FAX: 098-859-1411